

食事の前後に、漢字カードを見せて読んでやるのもいいでしょう。カードを見せるのは、一枚当たり数秒でいいと思います。あまり長すぎても、短すぎてもよくありません。この時間は守るようにして下さい。

初めは、幼児が喜びそうな字がいいでしょう。たとえば、その子が「犬」好きなら「これは健太クンの好きな犬という字よ、犬」というように、普通の速さで二、三回繰り返して読んで聞かせます。口を大きく開けて、はっきりした発音で言いましょ。これを食事の前後の決まった時間に行います。つまり一日六回、まずは30秒ほどの学習になります。このとき必ず漢字カードを見せてやる必要があります。もし一回で覚えたとしても、必ず繰り返すことです。

二日目は、まず昨日の漢字カードを見せて「これは何て読むのかな？」と聞きます。たいていは昨日の反復練習で読めるはずです。読めたら次の漢字です。これも子どもの好きそうな漢字から、「猫」でもいいし、「桃」でもいいし、「莓」でもかまいません。これを最初の日と同じ要領で繰り返します。

三日目は一日目の漢字と二日目の漢字を見せます。もし二日目の字を読めなかったら、三日目は二日目と同じことをやって、新しい字は教えません。読めなかったらといって何も焦る必要はありません。やさしく教えてやりましょ。じっくりと取り組む姿勢が何といっても大切です。

こうして最初の一週間を乗り切れれば、まず成功です。子どもも要領を得て、あとはどんどん覚えていきます。大事なことは最初に呑み込みが悪くても焦らないことです。子どものヤル気をなくさないようにしてく

ださい。親が怒ったり、やさしく言ってやらないと、漢字嫌いになることもあります。ニコニコ笑って教えてやりましょ。

こうして一週間が過ぎると、順調にいけば一日ごとに「この字は何て読むの？」と質問する漢字が増えていきます。8日目には尋ねるカードが7枚になります。それから新しく覚えるカードが一枚です。

ここまできたら、質問するカードは7枚より増やさないで、これからは新しく覚えるカードが一枚増えるたびに、最初一枚から減らしていきます。つまり8日目以降は、毎日7枚ずつ質問して、新しく一枚教えるというパターンが定着してきます。新たに覚えるために一日、読めるようになるために7日間を使うわけです。一つの漢字を毎日6回ずつ読み、これを一週間続けたということは、合計42回繰り返したことになります。これだけ繰り返せば、この漢字は卒業ということになります。

このような積み重ねで、三年間で1000字近くが読めるようになるわけです。無理なく、「一日一字一週間」の計画で進めていくことをお勤めします。これだけの漢字を知っていると、本はどんどん読めます。本を読む力がつくことは、自分で調べる力がつくことにつながります。最初は何でも親に聞いていたのに、もう親を頼らないで自分で解決して、新しいことを次々と吸収していきます。

ポイント:自分から進んでやらない者に教えるということはしないことです。つまり「課す」というのはよくありません。孔子も『論語』の中でこう言っています。「扮せざれば敬せず、しせざれば発せず」と。ですから宿題を出すなどというのは、学校のあり方として正しくないと思っています。